

展示物名：陶器・瓦

制作年：江戸時代

出土地：屋島寺

展示物概要：

屋島寺で発掘調査を行った際に出土した陶器と瓦です。陶器には外面に「寺」と書かれています。瓦の瓦当には、卍文と篆書体の「光」の下部分が施されています。屋島寺は正式名称を「南面山千光院屋島寺」と号するため、千光院の一文字である「光」を使用したと考えられます。

屋島寺は、鑑真が唐から日本に渡った際に屋島に立ち寄り、北嶺に創建した寺で、後に空海が南嶺の現在地へ遷したと伝わっています。屋島寺には、貞応2年（1223）に作られた梵鐘、空海の作と伝わる本尊千手観音坐像、鎌倉時代末の建立とされる本堂があり、その価値の高さから国の重要文化財に指定されています。